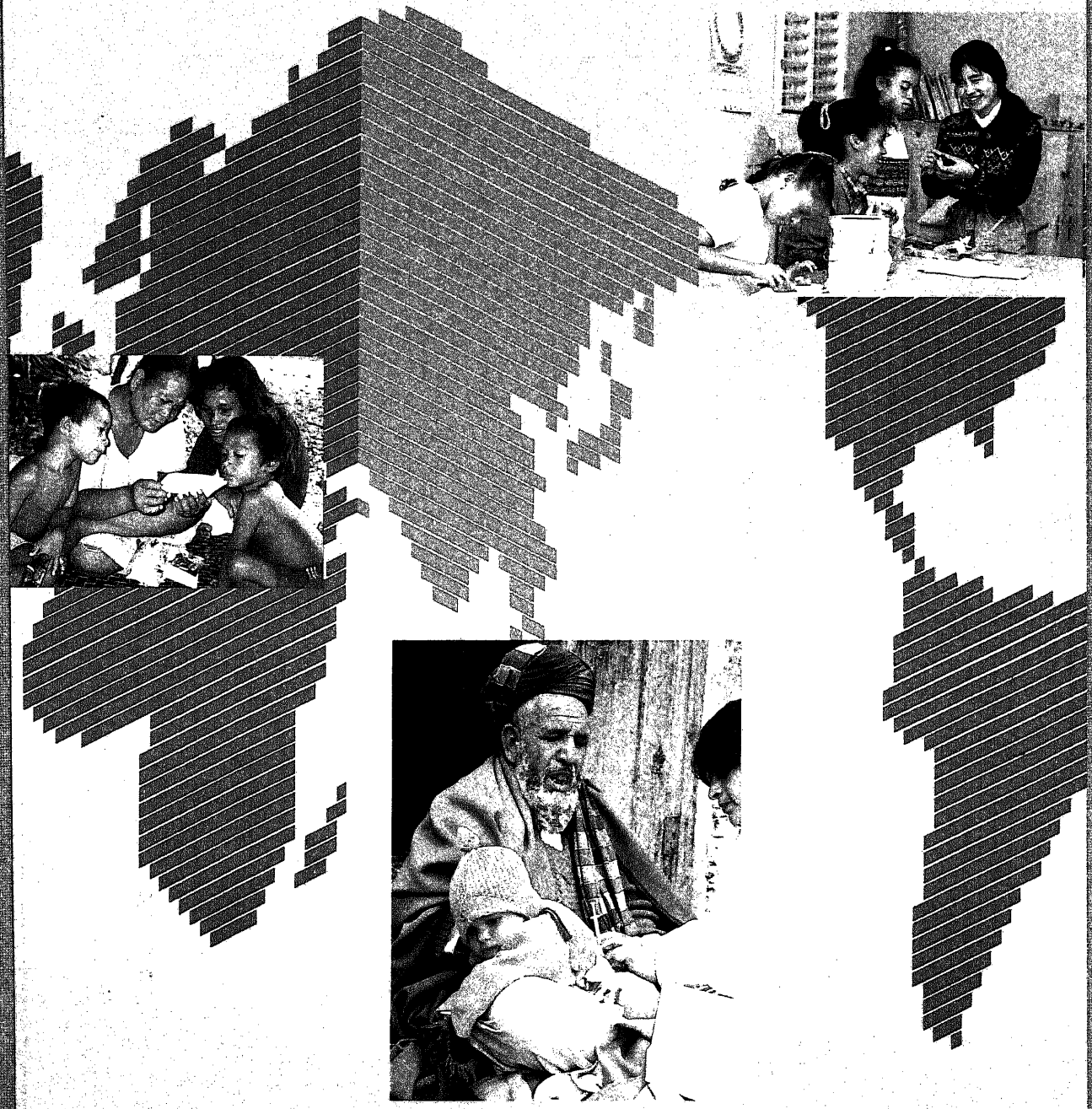
国際協力事業団年報 1991



国際協力事業団
Japan International Cooperation Agency

JICA LIBRARY
1092176(5)
22686

国際協力事業団年報

1991

国際協力事業団

国際協力事業団
22686
マイクロ
フィルム作成

国際協力事業団年報1991

第１部　国際協力と国際協力事業団

第２部　地域別・主要開発途上国別事業概要

第３部　1990年度総括事業実績

参　考　事業団の組織及び予算

国際協力事業団年報1991（資料編）

第４部　国別事業概要

第５部　事業実績・事業統計

〈表紙・裏表紙の写真〉

－第12回国際協力フォトコンテスト応募作品－

表紙・右上　ドミニカ共和国「田村浩子隊員の授業風景」（佳作・村山隆氏）

表紙・左中央　キリバス「お兄ちゃんよりの便り」（佳作・田村真理子氏）

表紙・中央下　アフガニスタン「小さな命を大切に」（佳作・斎藤千佳氏）

裏表紙　インド「峠を越えて」（佳作・脇田平八郎氏）

序

国際協力事業団は,1974年に設立されて以来，技術協力及び無償資金協力を中心に，開発途上国に対する政府ベースの援助を行ってまいりました。この間「世界に貢献する日本」として，その国際的地位にふさわしい役割を果たすため，積極的に政府開発援助（ODA）を拡充していくというわが国政府の方針のもとに，当事業団の事業も年々拡大し，設立当時の10倍以上の事業規模となっております。

開発途上諸国をとりまく状況は，アジアの一部の国において目覚ましい発展が見られるものの，サハラ以南のアフリカ地域をはじめとし，多くの国々が累積債務や輸出不振，貧困や人口増等の問題を抱え，経済運営は全般的に低迷を続けているのが現実です。また，東西の緊張緩和が進む一方で，既存の秩序が崩れたことによる不安定性，不確実性が表面化しつつあり，国際情勢は流動化する傾向を見せております。政府開発援助の一翼を担う当事業団としましては，このような国際環境の変化に柔軟に対応し，途上国の国情・ニーズに適合した，より持続性のある質の高い援助の展開を図る必要を痛感しております。

さらに，環境問題をはじめ貧困，開発と女性の問題，大規模災害に対する緊急援助など地球的規模の課題に対する取り組みも重要となってきております。当事業団ではこうした世界的課題への取り組みと同時に，開発途上国の自助努力に支えられた持続的開発を進め，それぞれの国ごとにきめ細かい援助を実施するため，国別・地域別の援助実施指針を策定し，より協力効果の高い援助の実現に向けて努力を続けてまいりました。

また，国際協力の裾野を拡げていくために，内外の援助機関との連携を強化するとともに，協力事業を支える国内基盤の更なる拡充及び国民的理解と参加による事業の展開がますます重要になってきているとの観点から，地方との連携強化について更に努力を続けてまいりたいと考えております。

去る７月12日，ペルー国に派遣中の３名の農業専門家がテロの犠牲となられるという痛ましい事件が発生致しました。志半ばにして不慮の最期を遂げられた３名の方々の無念さを思い，私どもは開発途上国援助という国際的使命の達成に向かって，更に力強く前進し続けなければならないとの思いを深くしている次第です。

これら最近の開発途上国援助の動向をふまえて，ここに1991年版「国際協力事業団年報」を刊行いたします。国際協力の実情並びに当事業団事業についてご理解いただくための一助となれば幸いです。

1991年10月

国際協力事業団
総裁 柳谷謙介

目　　次

《本　編》

■第1部　国際協力と国際協力事業団
第1章　わが国の政府開発援助
第1節　政府開発援助の概要…… 3
第2節　わが国の政府開発援助の体制とそれを取りまく最近の状況…… 5
第2章　1990年度の主な活動
第1節　国別援助実施指針の策定…… 8
第2節　環境分野の協力…… 10
第3節　開発と女性…… 12
第4節　地方の国際化と国際協力…… 14
第5節　先進国・国際機関との連携…… 16
第6節　東欧諸国への協力…… 18
第7節　湾岸諸国への協力…… 19
第3章　事業の種類とその概要
第1節　援助効率促進事業…… 20
第2節　技術協力事業…… 25
第1　技術研修員受入事業…… 25
第2　青年招へい事業…… 33
第3　技術協力専門家派遣事業…… 34
第4　技術協力機材供与事業…… 36
第5　プロジェクト方式技術協力事業…… 37
第6　開発調査事業…… 42
第3節　無償資金協力事業…… 49
第4節　青年海外協力隊派遣事業…… 53
第5節　開発協力事業…… 59
第6節　海外移住事業…… 62
第7節　災害援助等協力事業…… 67
第8節　技術協力専門家養成確保事業…… 75
第9節　技術協力専門家等福利厚生事業…… 79

■第2部　地域別・主要開発途上国別事業概要
第1章　アジア地域［Ⅰ］（東・東南アジア）
第1節　地域概説…… 83
第2節　中国…… 87
第3節　インドネシア…… 89

第4節　マレイシア…… 93
第5節　フィリピン…… 95
第6節　シンガポール…… 98
第7節　タイ……100
第2章　アジア地域［II］（南西アジア）
第1節　地域概説……104
第2節　バングラデシュ……106
第3節　インド……109
第4節　ネパール……111
第5節　パキスタン……113
第6節　スリ・ランカ……116
第3章　中近東地域
第1節　地域概説……118
第2節　エジプト……120
第3節　ジョルダン……122
第4節　トルコ……123
第5節　モロッコ……125
第6節　サウディ・アラビア……126
第4章　アフリカ地域
第1節　地域概説……128
第2節　ケニア……131
第3節　セネガル……133
第4節　タンザニア……134
第5節　ザイール……136
第6節　ザンビア……137
第5章　中南米地域
第1節　地域概説……139
第2節　アルゼンティン……143
第3節　ボリヴィア……145
第4節　ブラジル……147
第5節　コスタ・リカ……150
第6節　メキシコ……152
第7節　パラグァイ……154
第8節　ペルー……157
第6章　オセアニア地域
第1節　地域概説……160
第2節　フィジー……162
第3節　パプア・ニューギニア……164
第7章　ヨーロッパ地域
地域概説……167

■第３部　1990年度総括事業実績

第１　形態別人数実績……171
１．アジア地域……171
２．中近東地域……172
３．アフリカ地域……173
４．中南米地域……174
５．オセアニア地域……175
６．ヨーロッパ地域等……176
７．国際機関……177
８．全世界……178
第２　事業別人数実績……179
第３　事業別経費実績……180

■参　考　事業団の組織及び予算

第１　国際協力事業団の沿革……182
第２　組織と定員……184
第３　予算……185

■本文中の囲み記事

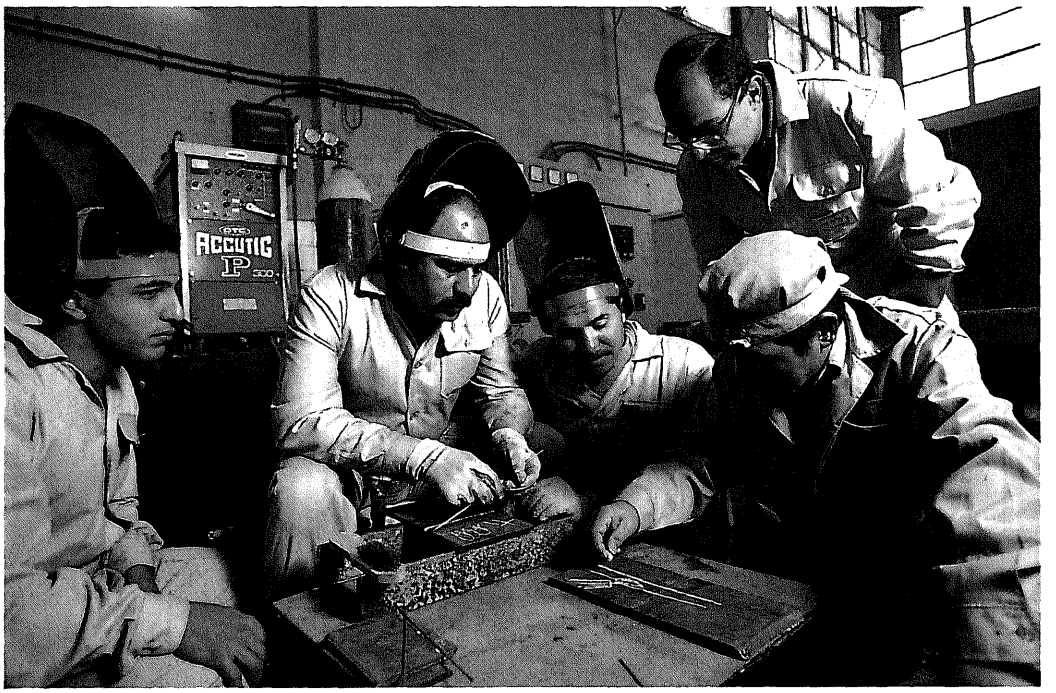
花博でマングローブ林……11
婦人問題研修コースの開催……12
高校生対象の開発教育ツアー……14
アフリカ援助のあり方を探る……16
初の「環境アセスメント」研修……26
マリ大統領が筑波国際農業研修センター訪問……30
ミャンマーへの医療協力……41
25歳になった青年海外協力隊……57
移住事業の研修制度……65
国際緊急援助隊の活動を追う……68
インドネシア高等教育開発計画……92
タイ環境研究研修センター……102
ニジェールでの緑の協力推進……130
ケニア園芸開発計画……132
ブラジル国別援助研究会……149

■本文中の一覧表

集団研修コース実績……27
国際研修センター……32
プロジェクト方式技術協力実績……39
開発調査実績……44
無償資金協力・基本設計調査実績……51
青年海外協力隊派遣取極め国……55
国際緊急援助隊派遣及び物資供与実績……69

バス・トラック整備技術の研修（八王子国際研修センター／技術研修員受入）

田植え実習（農村青年グループ／青年招へい）



溶接技術を指導する専門家（エジプト／技術協力専門家派遣）

農業大学院計画（バングラデシュ／プロジェクト方式技術協力）